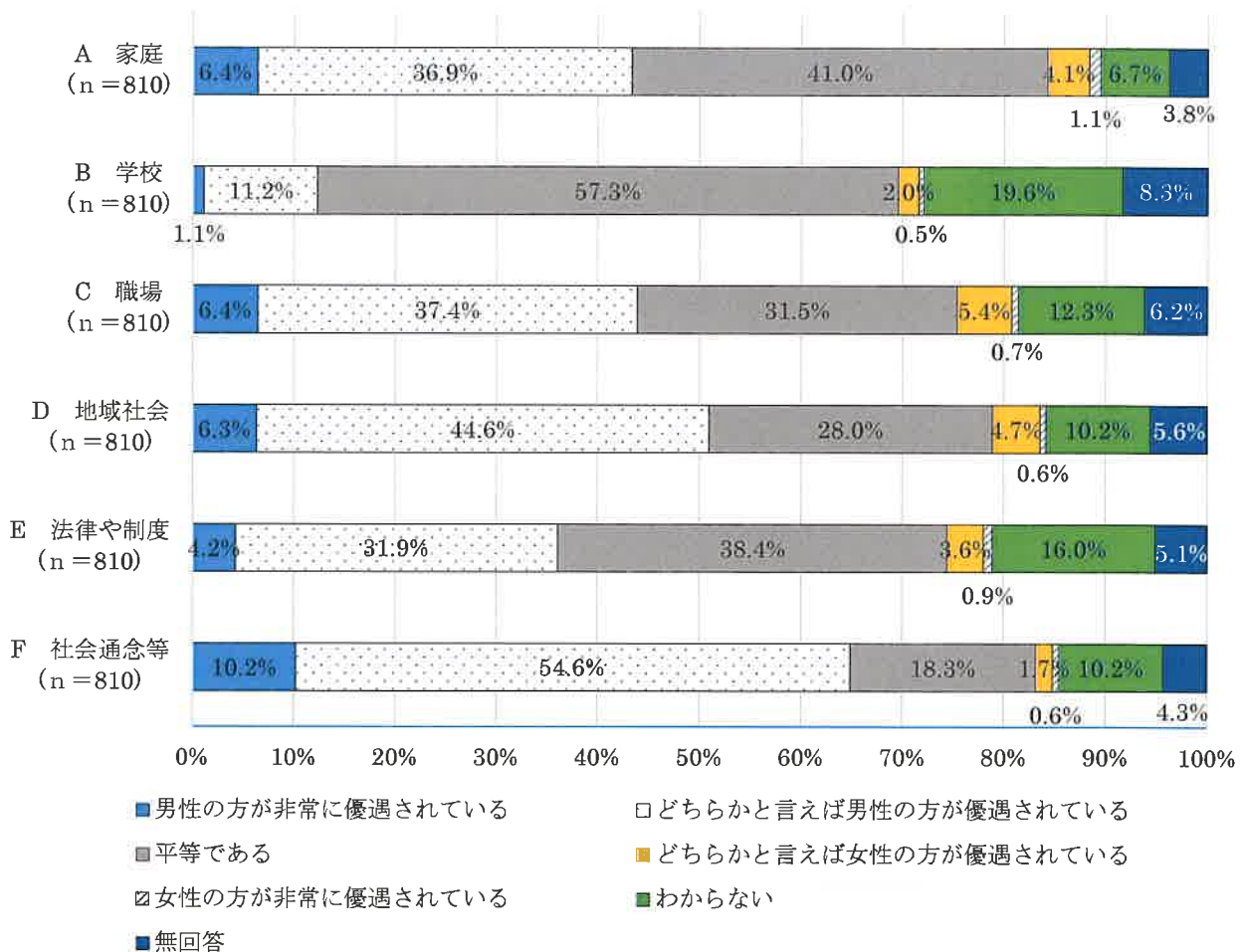


## ② 男女平等の意識について

問1 あなたは、次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。  
(各項目について、自分の考えに最も近いものを1つだけ選択)

A 家庭の中で	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
B 学校教育の中で						
C 職場の中で						
D 地域社会の中で						
E 法律や制度で						
F 社会通念、慣習、しきたりなどで						

男女平等の意識について



各項目の男女の平等感をみると、「平等である」と答えた割合は「学校教育の中で」(57.3%)が最も高く、次いで「家庭の中で」(41.0%)、「法律や制度で」(38.4%)、「職場の中で」(31.5%)、「地域社会の中で」(28.0%)、「社会通念、慣習、しきたりなどで」(18.3%)の順となっている。

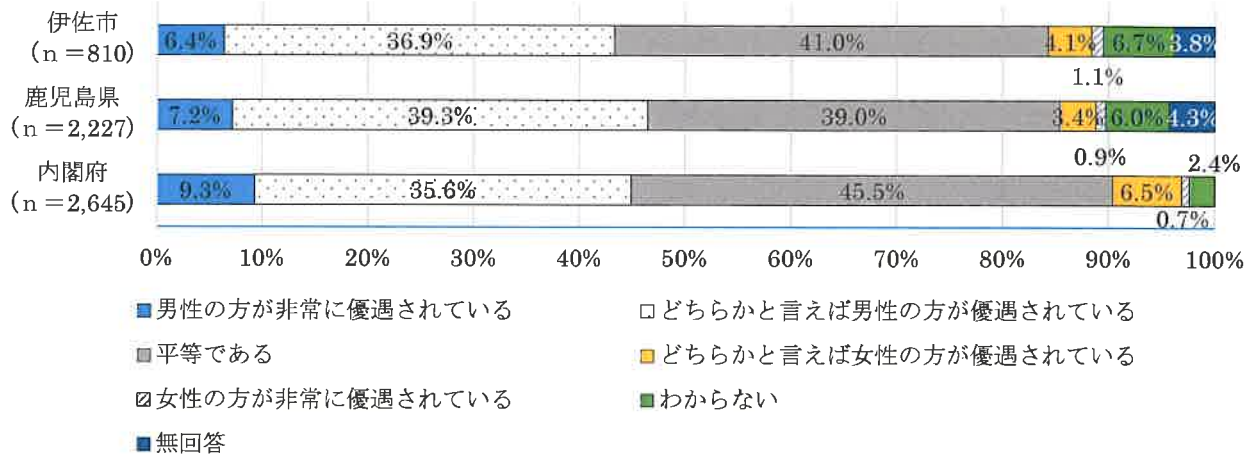
また、全ての項目で『男性優遇』（「男性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」）が『女性優遇』（「女性の方が非常に優遇されている」＋「どちらかと言えば女性の方が優遇されている」）を上回っており、特に「社会通念、慣習、しきたりなどで」、「地域社会の中で」は、『男性優遇』が『女性優遇』よりそれぞれ約60ポイント、約45ポイント高くなっている。

選択肢	男性優遇	女性優遇	ポイント差
A 家庭の中で	43.3%	5.2%	38.1
B 学校教育の中で	12.3%	2.5%	9.8
C 職場の中で	43.8%	6.1%	37.7
D 地域社会の中で	50.9%	5.3%	45.6
E 法律や制度で	36.1%	4.5%	31.6
F 社会通念、慣習、しきたりなどで	64.8%	2.3%	62.5

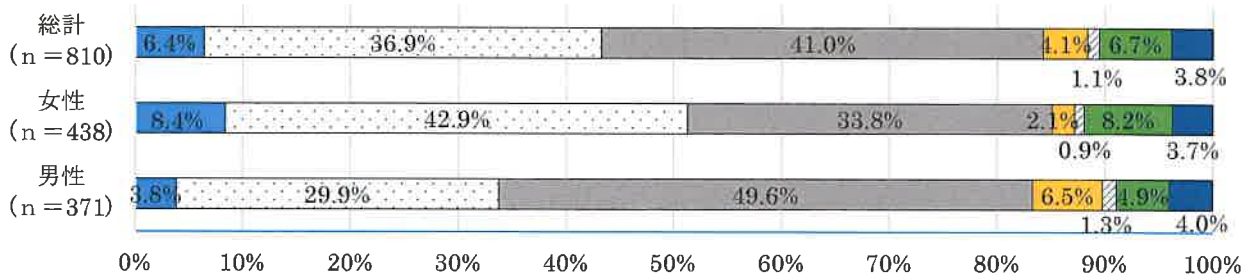
### A 男女平等の意識【家庭の中で】

「平等である」と答えた割合は、伊佐市が41.0%、鹿児島県が39.0%、内閣府が45.5%となっており、鹿児島県との比較では、伊佐市の平等感がやや高い結果となっているが、内閣府と比較すると4.5ポイント低い結果となっている。

男女平等の意識 【家庭の中で】 県等との比較



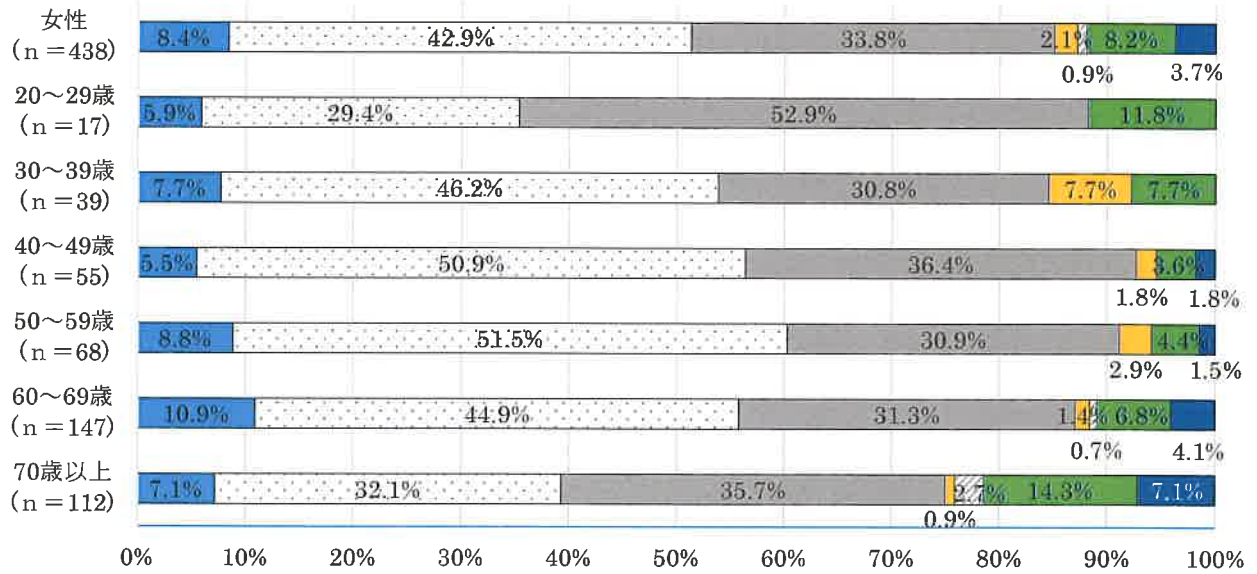
男女平等の意識 【家庭の中で】 性別



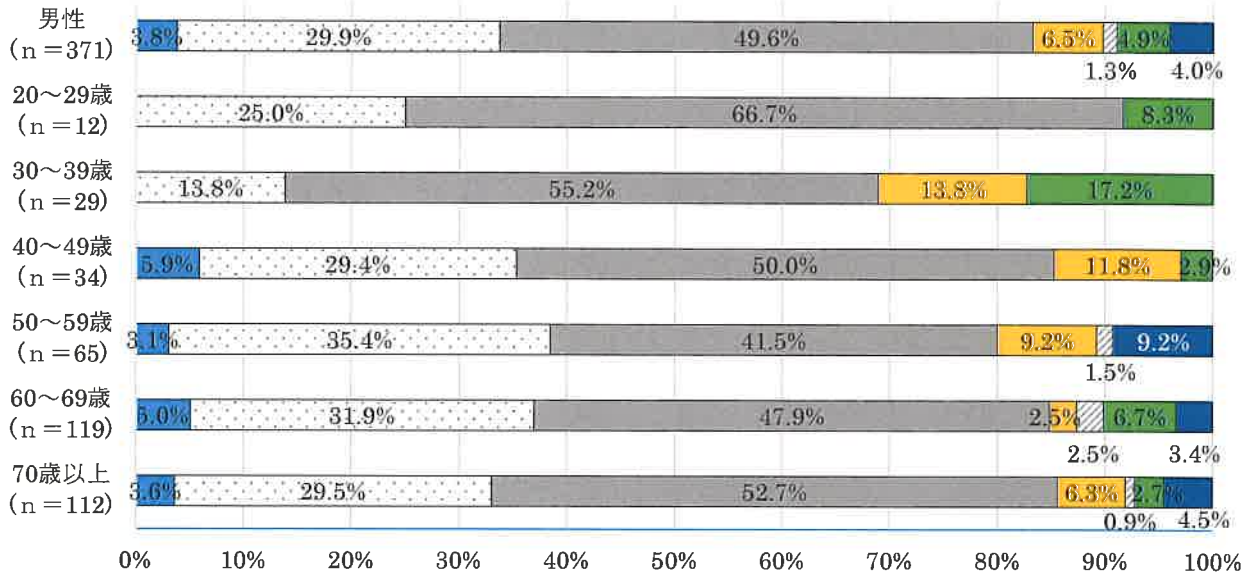
性別で見ると、「平等である」と答えた割合は、男性（49.6%）が女性（33.8%）を15.8ポイント上回っているが、『男性優遇』と答えた割合は、女性51.3%（8.4%+42.9%）が男性33.7%（3.8%+29.9%）を17.6ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、20歳代女性、50歳代及び60歳代を除く男性では「平等である」と答えた割合が、5割以上となっているが、20歳代を除く女性の全ての年代では約3割となっている。また、女性の30歳代から60歳代においては、『男性優遇』と答えた割合が、5割以上となっている。

男女平等の意識 【家庭の中で】 女性、年代別



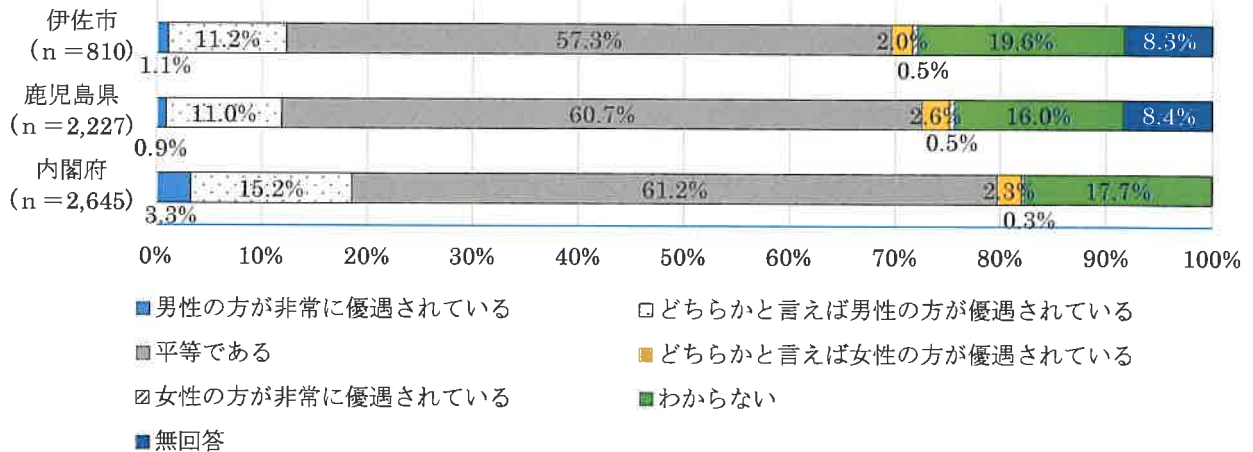
男女平等の意識 【家庭の中で】 男性、年代別



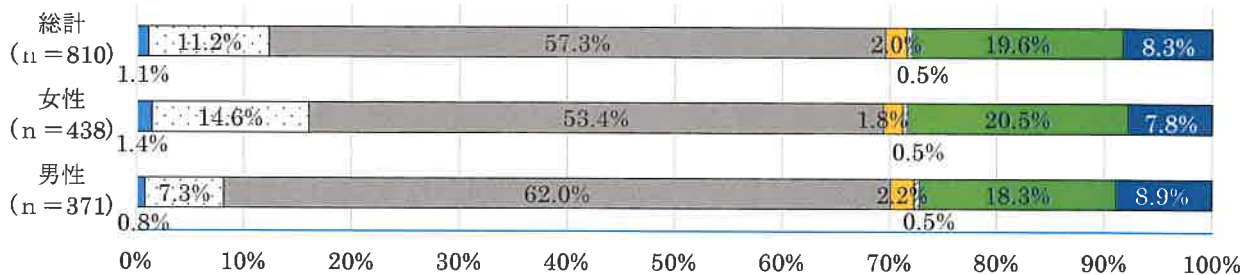
## B 男女平等の意識【学校教育の中で】

「平等である」と答えた割合は、伊佐市が57.3%、鹿児島県が60.7%、内閣府が61.2%となっており、「平等である」が最も高くなっている。

男女平等の意識 【学校教育の中で】 県等との比較



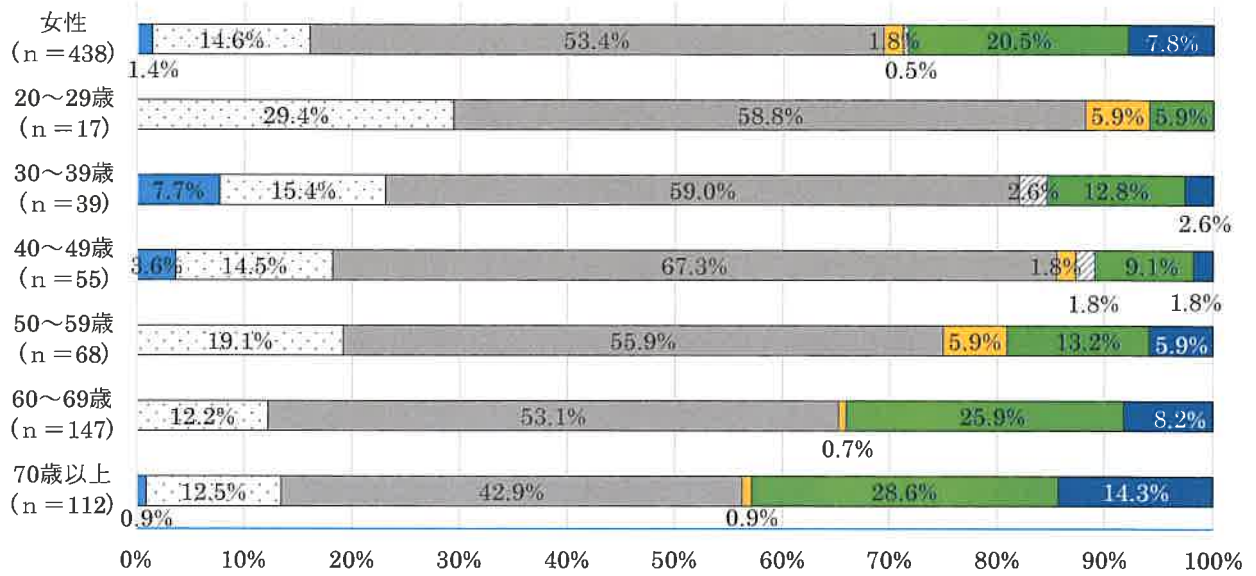
男女平等の意識 【学校教育の中で】 性別



性別で見ると、「平等である」と答えた割合は、男女とも5割以上となっているが、男性（62.0%）が女性（53.4%）を8.6ポイント上回る結果となっている。一方、『男性優遇』と答えた割合は、女性16.0%（1.4%+14.6%）が男性8.1%（0.8%+7.3%）を7.9ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、70歳以上を除く女性、全ての年代の男性で「平等である」と答えた割合が、5割以上となっているが、20歳代の女性の約3割、30歳代から60歳代の女性の約2割が、『男性優遇』と回答している。

男女平等の意識 【学校教育の中で】 女性、年代別



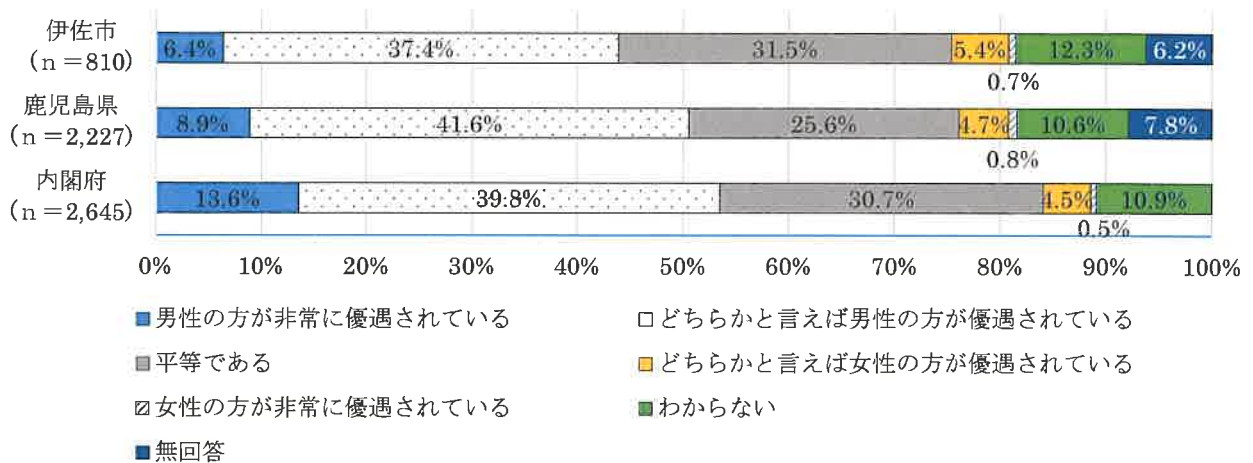
男女平等の意識 【学校教育の中で】 男性、年代別



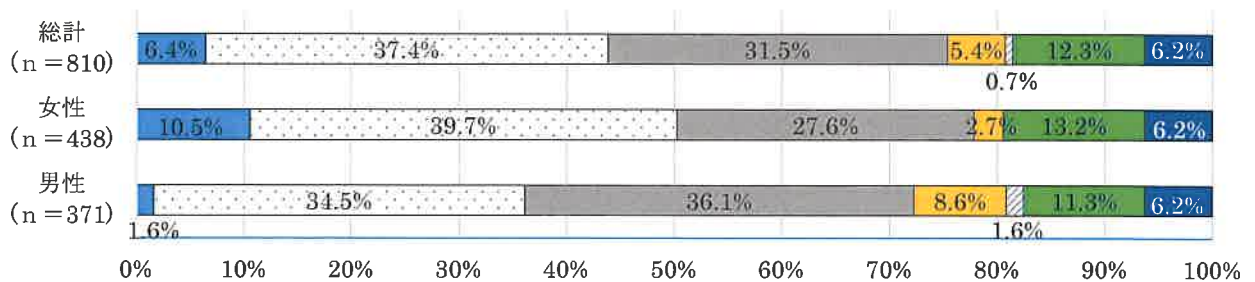
C 男女平等の意識【職場の中で】

『男性優遇』と答えた割合は、伊佐市が43.8% (6.4% + 37.4%)、鹿児島県が50.5% (8.9% + 41.6%)、内閣府が53.4% (13.6% + 39.8%) となっている。伊佐市では、『男性優遇』が43.8% (6.4% + 37.4%) で、『女性優遇』の6.1% (5.4% + 0.7%) を37.7ポイント上回る結果となっている。

男女平等の意識 【職場の中で】 県等との比較



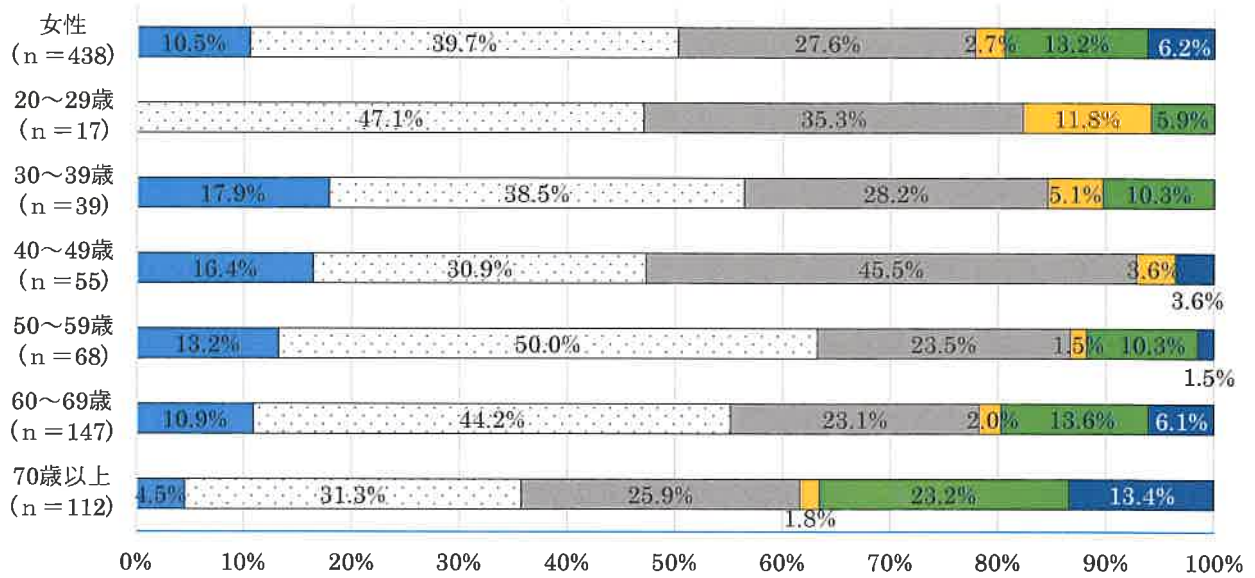
男女平等の意識 【職場の中で】 性別



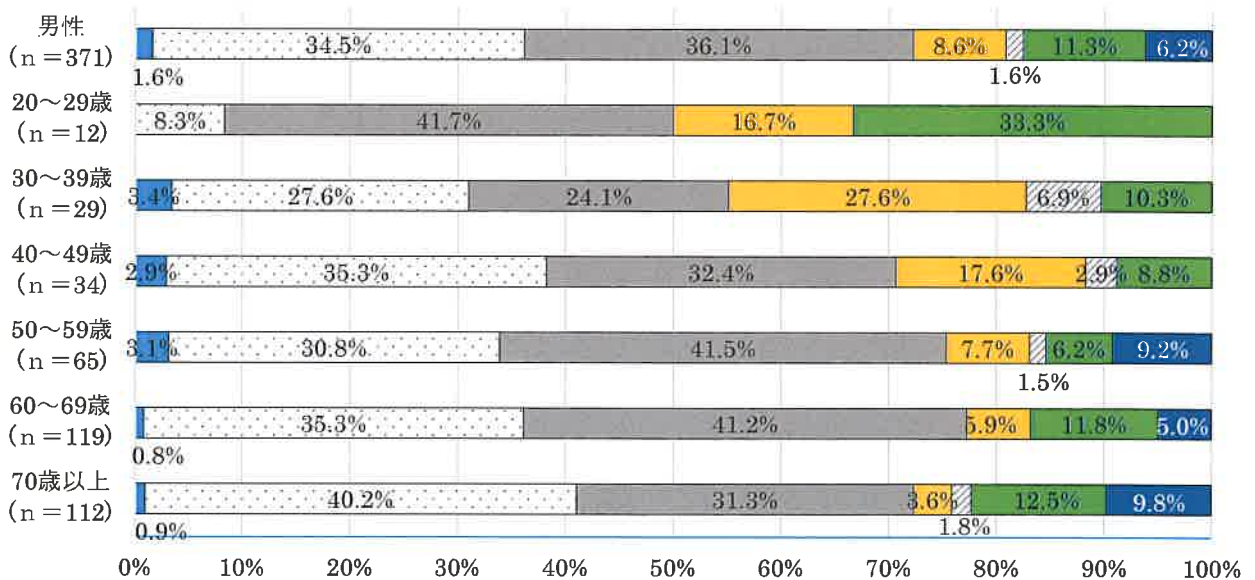
性別で見ると、『男性優遇』と答えた割合は、女性50.2% (10.5% + 39.7%) が、男性36.1% (1.6% + 34.5%) を14.1ポイント上回っており、「平等である」と答えた割合は、男性36.1%が女性27.6%を8.5ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、70歳以上を除く女性では、『男性優遇』と答えた割合が約5割以上となっているが、20歳代を除く男性では、3割から4割と低くなっている。また、『男性優遇』と回答した20歳代の女性47.1%に対し、20歳代の男性は8.3%と38.8ポイントの差がみられる結果となっている。

男女平等の意識 【職場の中で】 女性、年代別



男女平等の意識 【職場の中で】 男性、年代別

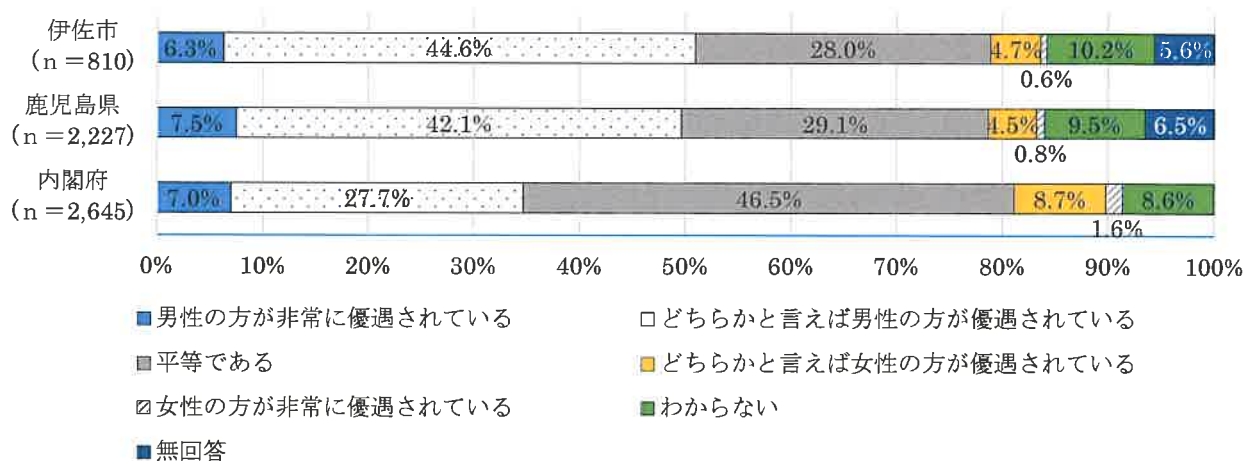




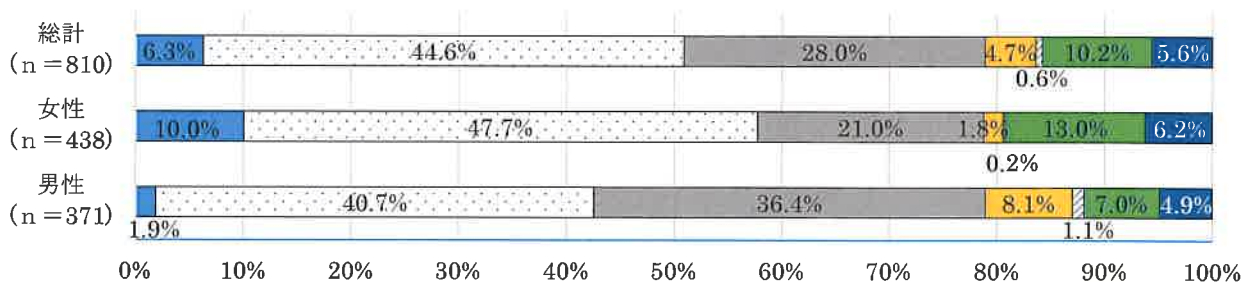
#### D 男女平等の意識【地域社会の中で】

『男性優遇』と答えた割合は、伊佐市が50.9% (6.3% + 44.6%)、鹿児島県が49.6% (7.5% + 42.1%)、内閣府が34.7% (7.0% + 27.7%) となっている。「平等である」と答えた割合は、伊佐市が内閣府よりも18.5ポイント低くなっており、鹿児島県と同様の結果となっている。

男女平等の意識 【地域社会の中で】 県等との比較



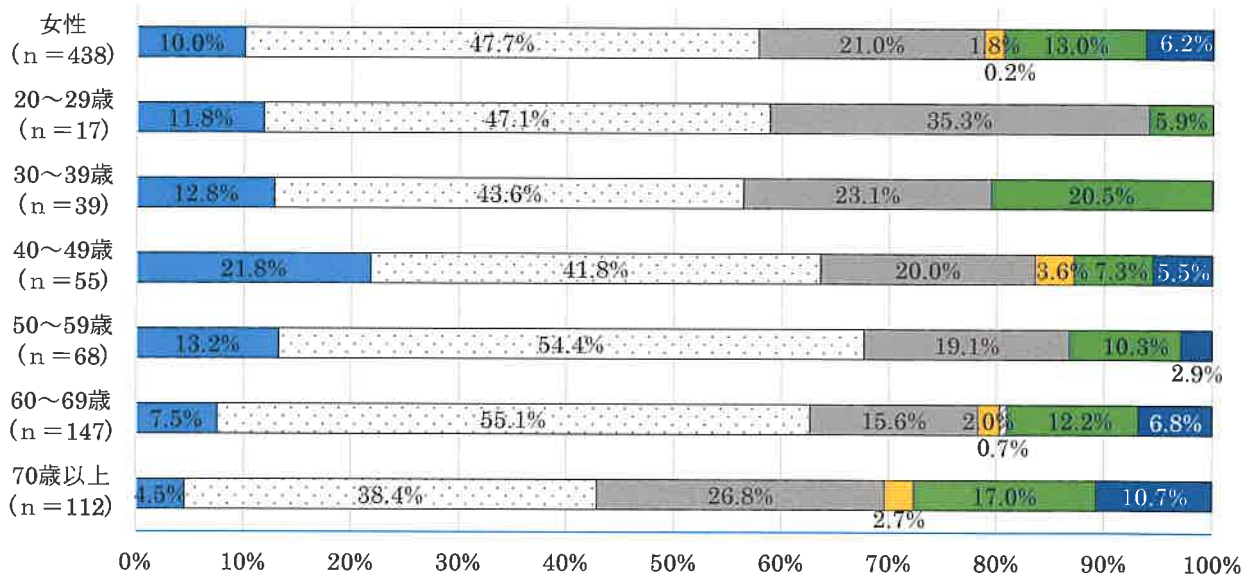
男女平等の意識 【地域社会の中で】 性別



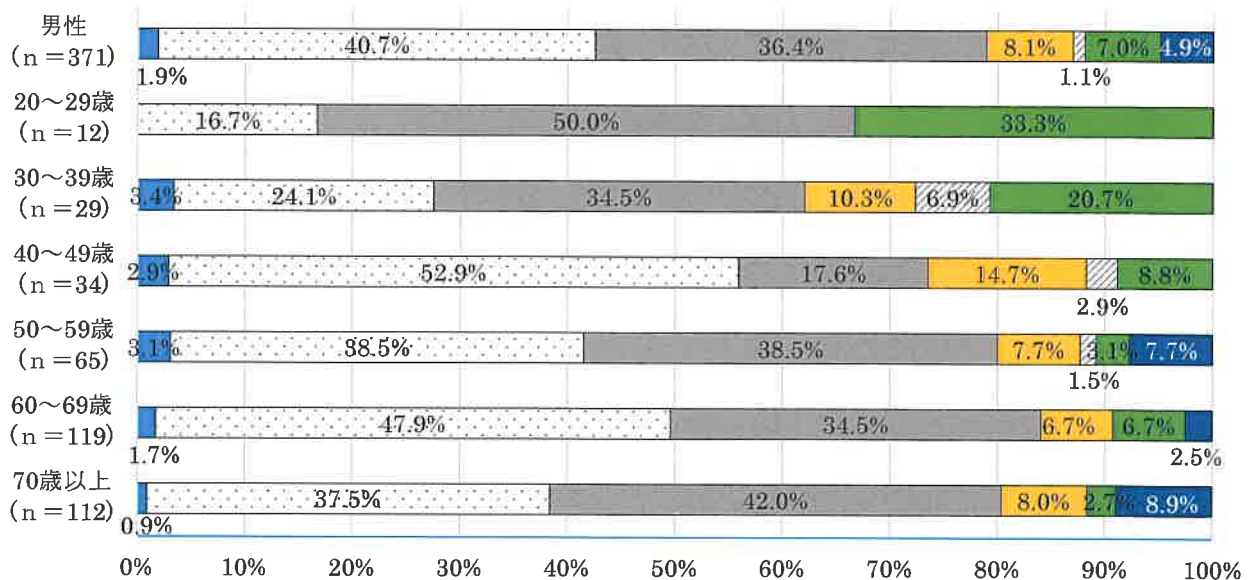
性別で見ると、『男性優遇』と答えた割合は、女性57.7% (10.0% + 47.7%) が、男性42.6% (1.9% + 40.7%) を15.1ポイント上回っており、「平等である」と答えた割合は、男性36.4%が女性21.0%を15.4ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、70歳以上を除く女性では、『男性優遇』と答えた割合が約6割以上、70歳以上の女性も約4割となっており、「平等である」と答えた割合(2~3割)に比較して高くなっている。また、40歳以上の男性では、『男性優遇』と答えた割合が4割~5割となっているが、20歳代の男性では、16.7%と低くなっている。「平等である」と答えた割合は、40歳代を除いた全ての年代で、男性が女性を11.4ポイントから19.4ポイント上回っている。

男女平等の意識 【地域社会の中で】 女性、年代別



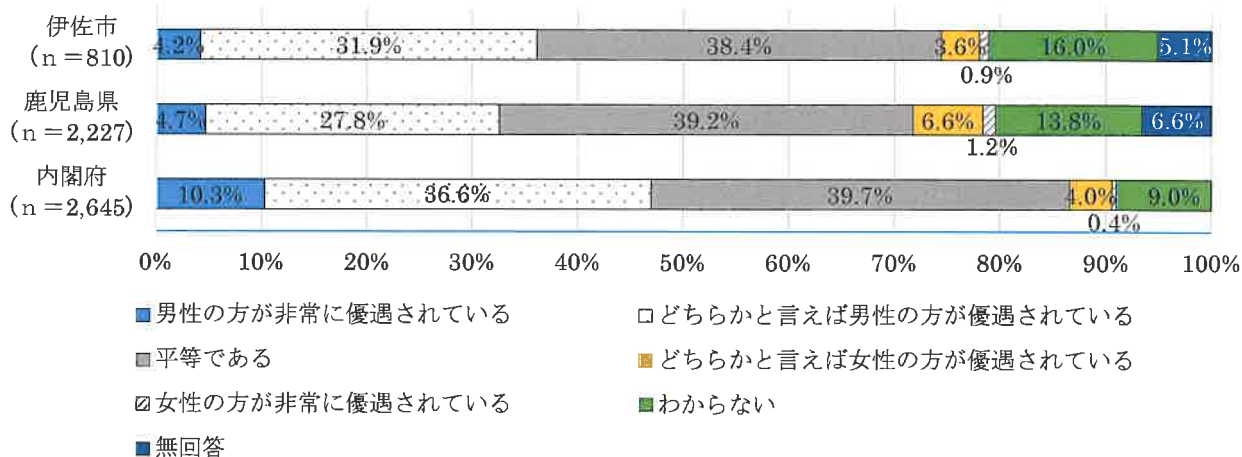
男女平等の意識 【地域社会の中で】 男性、年代別



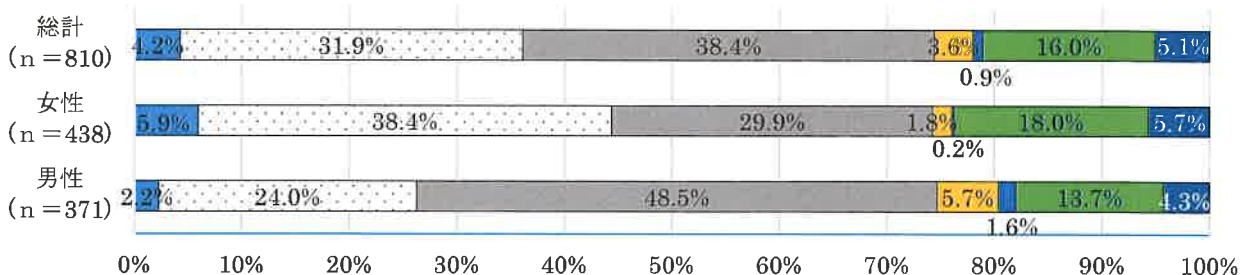
## E 男女平等の意識【法律や制度で】

「平等である」と答えた割合は、伊佐市が38.4%、鹿児島県が39.2%、内閣府が39.7%となっている。伊佐市では、「平等である」と答えた割合が、『男性優遇』と答えた割合の36.1%（4.2%+31.9%）を2.3ポイント上回っている。

男女平等の意識 【法律や制度で】 県等との比較



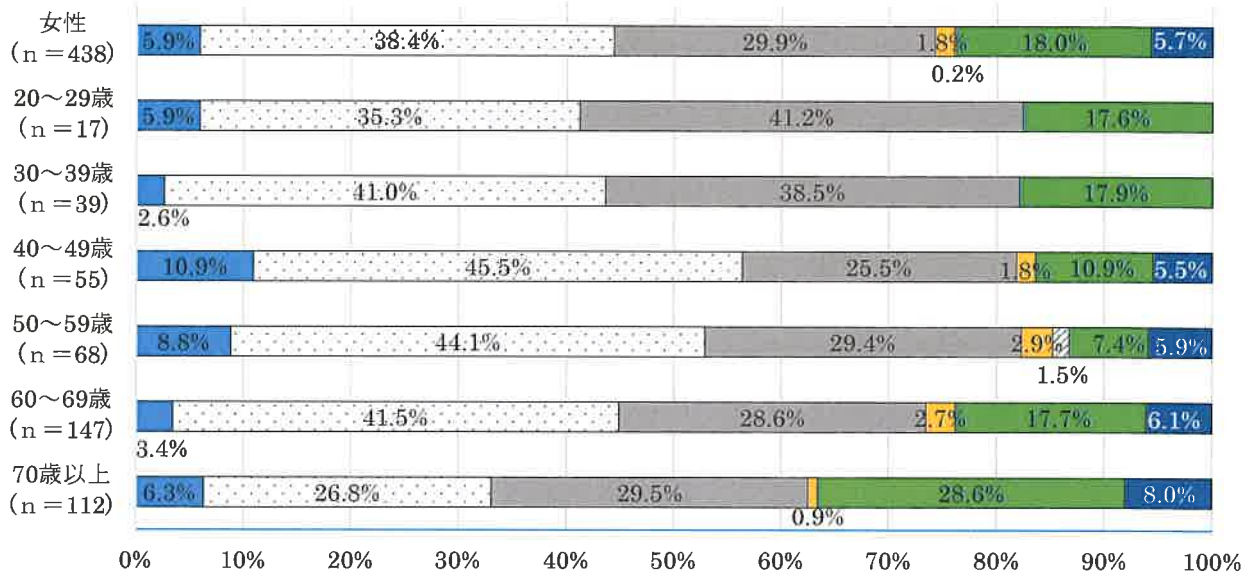
男女平等の意識 【法律や制度で】 性別



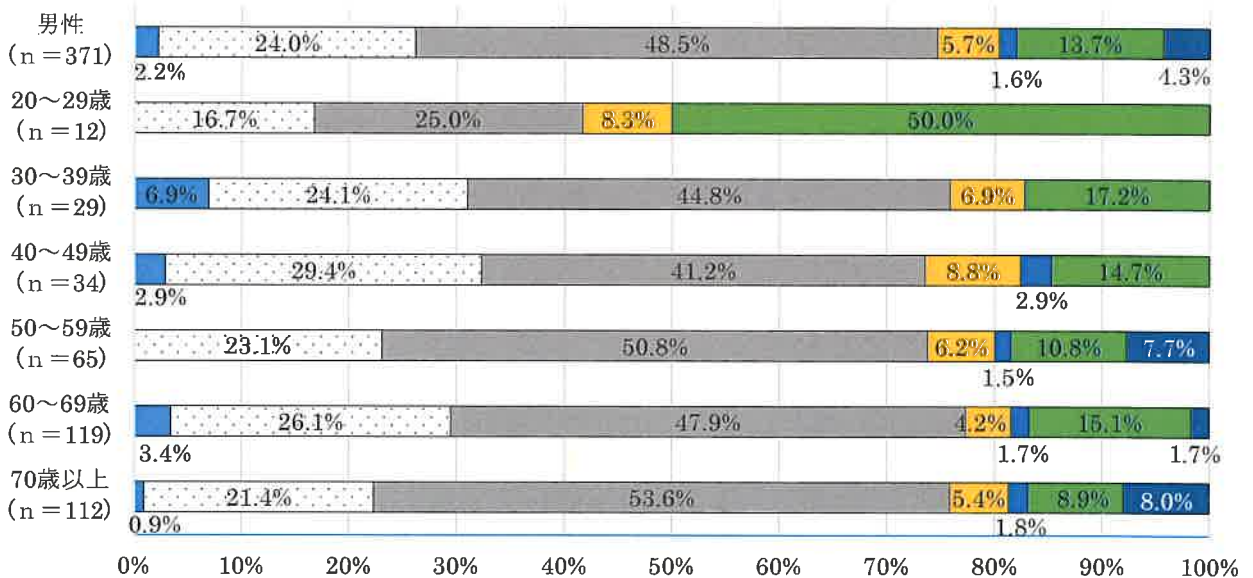
性別で見ると、『男性優遇』と答えた割合は、女性44.3%（5.9%+38.4%）が、男性26.2%（2.2%+24.0%）を18.1ポイント上回っているが、「平等である」と答えた割合は、男性48.5%が女性29.9%を18.6ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、70歳以上を除く女性では、『男性優遇』と答えた割合が約4割以上となっており、「平等である」と答えた割合（3～4割）に比較して高くなっている。また、男性の全ての年代において、『男性優遇』と答えた割合が約3割未満と低くなっており、「平等である」と答えた割合は、30歳代、40歳代の男性が約4割、50歳以上の男性では約5割と高くなっている。

男女平等の意識 【法律や制度で】 女性、年代別



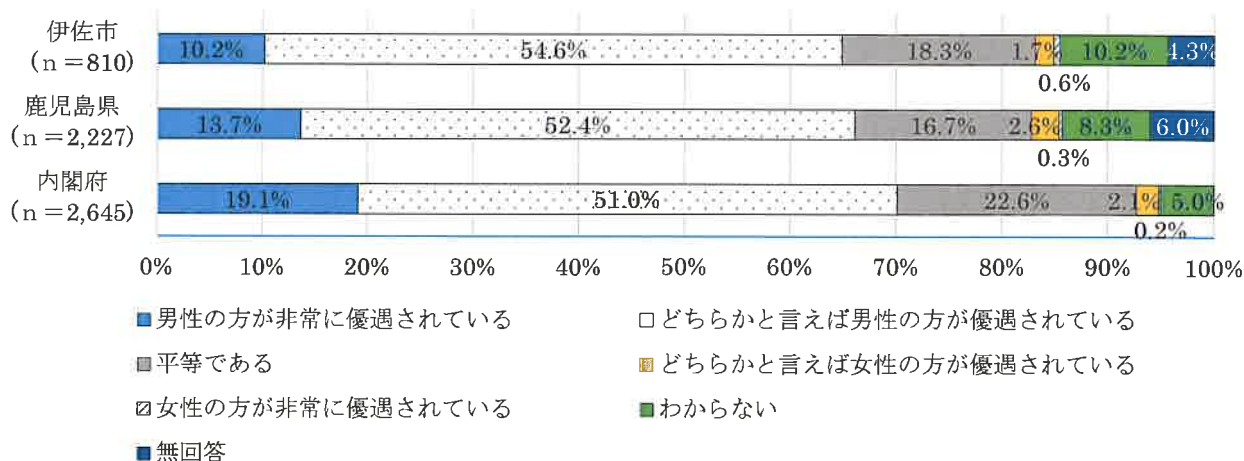
男女平等の意識 【法律や制度で】 男性、年代別



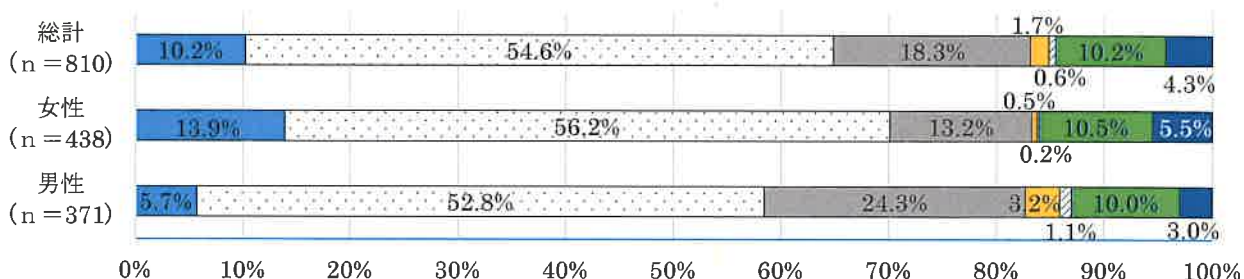
F 男女平等の意識【社会通念、慣習、しきたりなどで】

『男性優遇』と答えた割合は、伊佐市が64.8%（10.2%+54.6%）、鹿児島県が66.1%（13.7%+52.4%）、内閣府が70.1%（19.1%+51.0%）となっている。伊佐市では、『女性優遇』と答えた割合が2.3%（1.7%+0.6%）で、『男性優遇』と答えた割合と62.5ポイントの差がみられる結果となっている。

男女平等の意識 【社会通念、慣習、しきたりなどで】 県等との比較



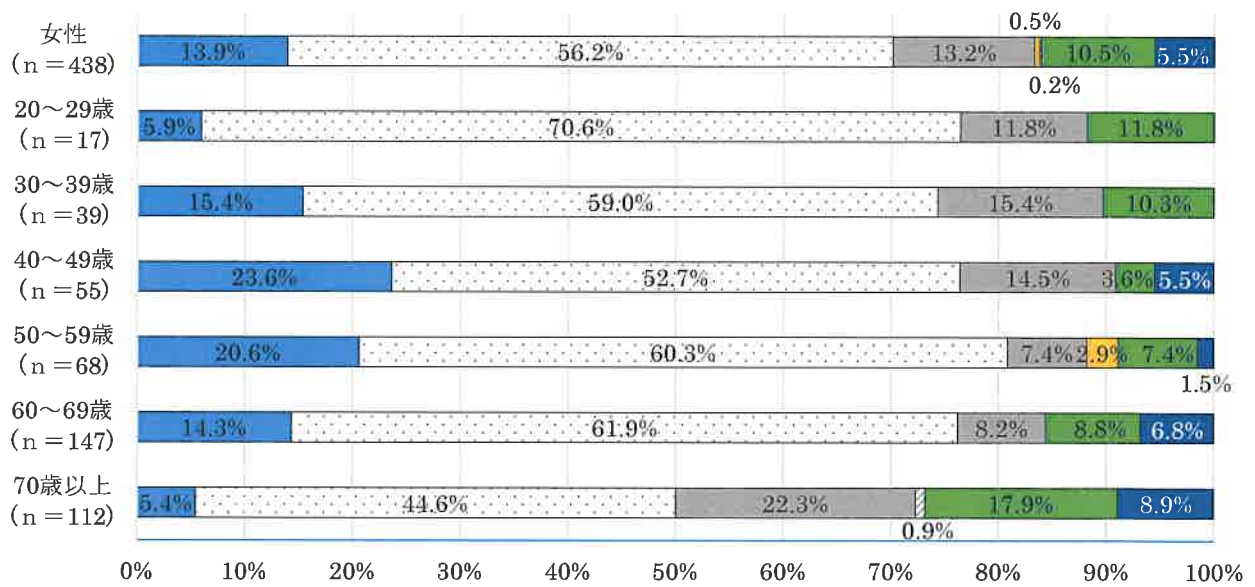
男女平等の意識 【社会通念、慣習、しきたりなどで】 性別



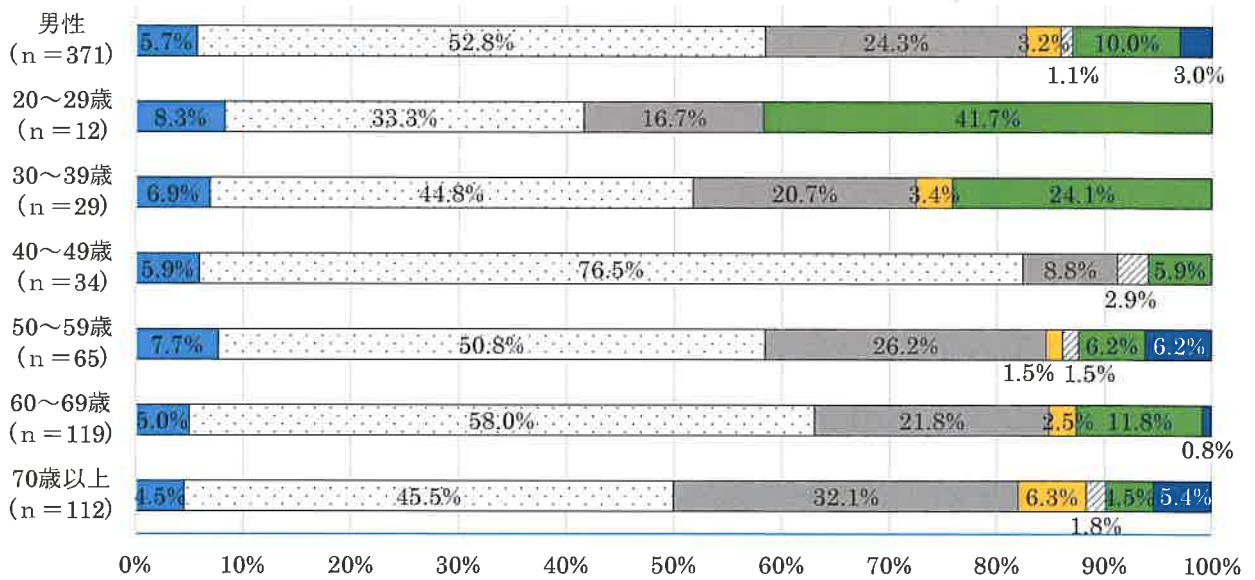
性別で見ると、『男性優遇』と答えた割合は、女性70.1%（13.9%+56.2%）が、男性58.5%（5.7%+52.8%）を11.6ポイント上回っており、「平等である」と答えた割合は、男性24.3%が女性13.2%を11.1ポイント上回っている。

性別、年代別で見ると、70歳以上を除く女性では、『男性優遇』と答えた割合が約7割以上となっており、「平等である」と答えた割合（1～2割）に比較して高くなっている。また、20歳代を除く男性では、『男性優遇』と答えた割合が約5割以上となっている。

男女平等の意識 【社会通念、慣習、しきたりなどで】 女性、年代別



男女平等の意識 【社会通念、慣習、しきたりなどで】 男性、年代別



問2 あなたは、男女共同参画に関連の深い用語について知っていますか。

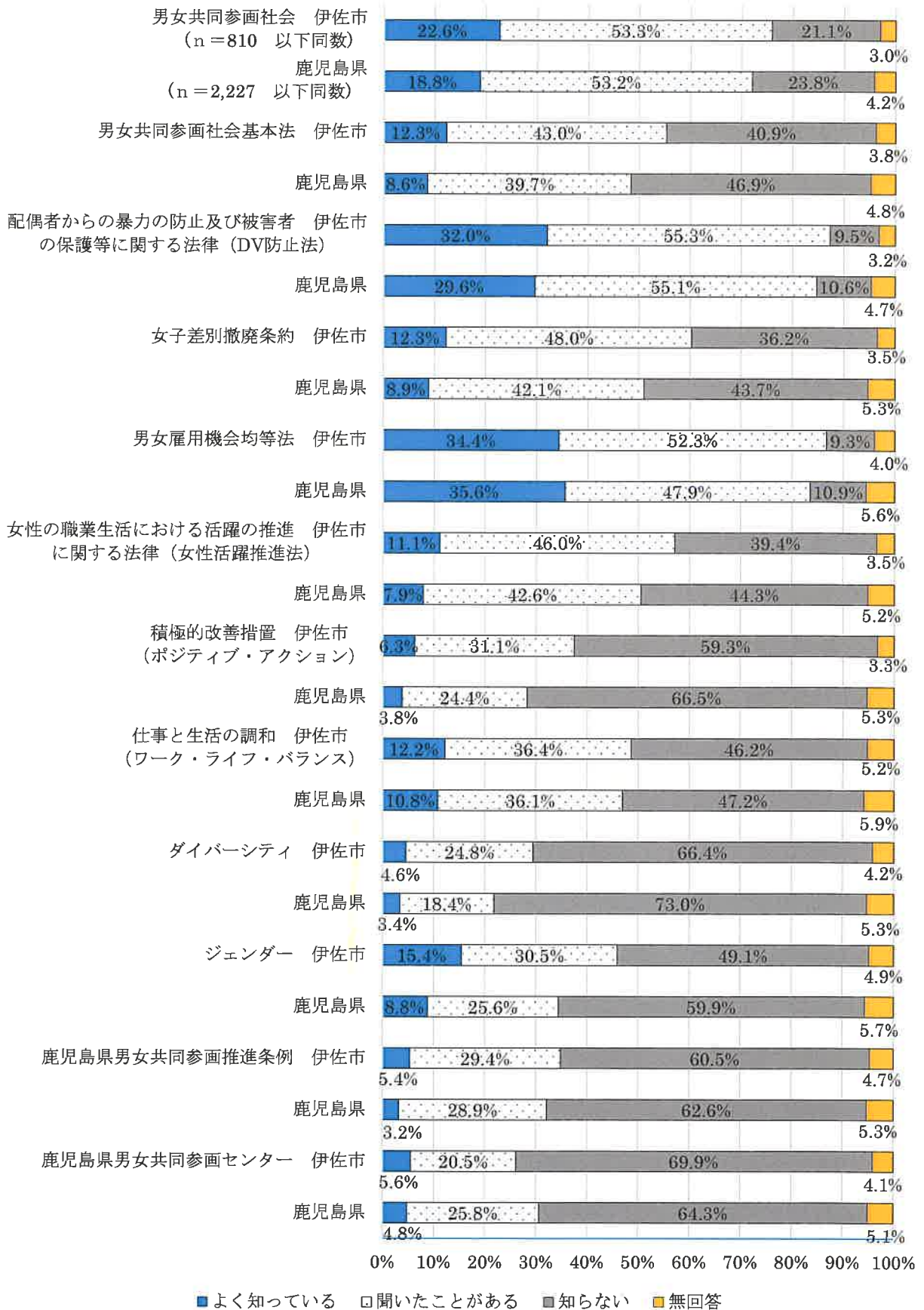
(各項目について、1つだけ選択)

男女共同参画の関連用語の認知度について、「よく知っている」と答えた割合は、「男女雇用機会均等法」(34.4%)、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」(32.0%)、「男女共同参画社会」(22.6%)となっており、鹿児島県と同様の順となっている。また、「知らない」と答えた割合は、「鹿児島県男女共同参画センター」(69.9%)、「ダイバーシティ」(66.4%)、「鹿児島県男女共同参画推進条例」(60.5%)、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)」(59.3%)で5割以上となっている。これらの用語について、鹿児島県では「知らない」と答えた割合が6割以上となっており、おおむね同様の結果となっている。

鹿児島県と比較すると、「男女雇用機会均等法」を除く全ての用語で、伊佐市の方が認知度が高い結果となっている。

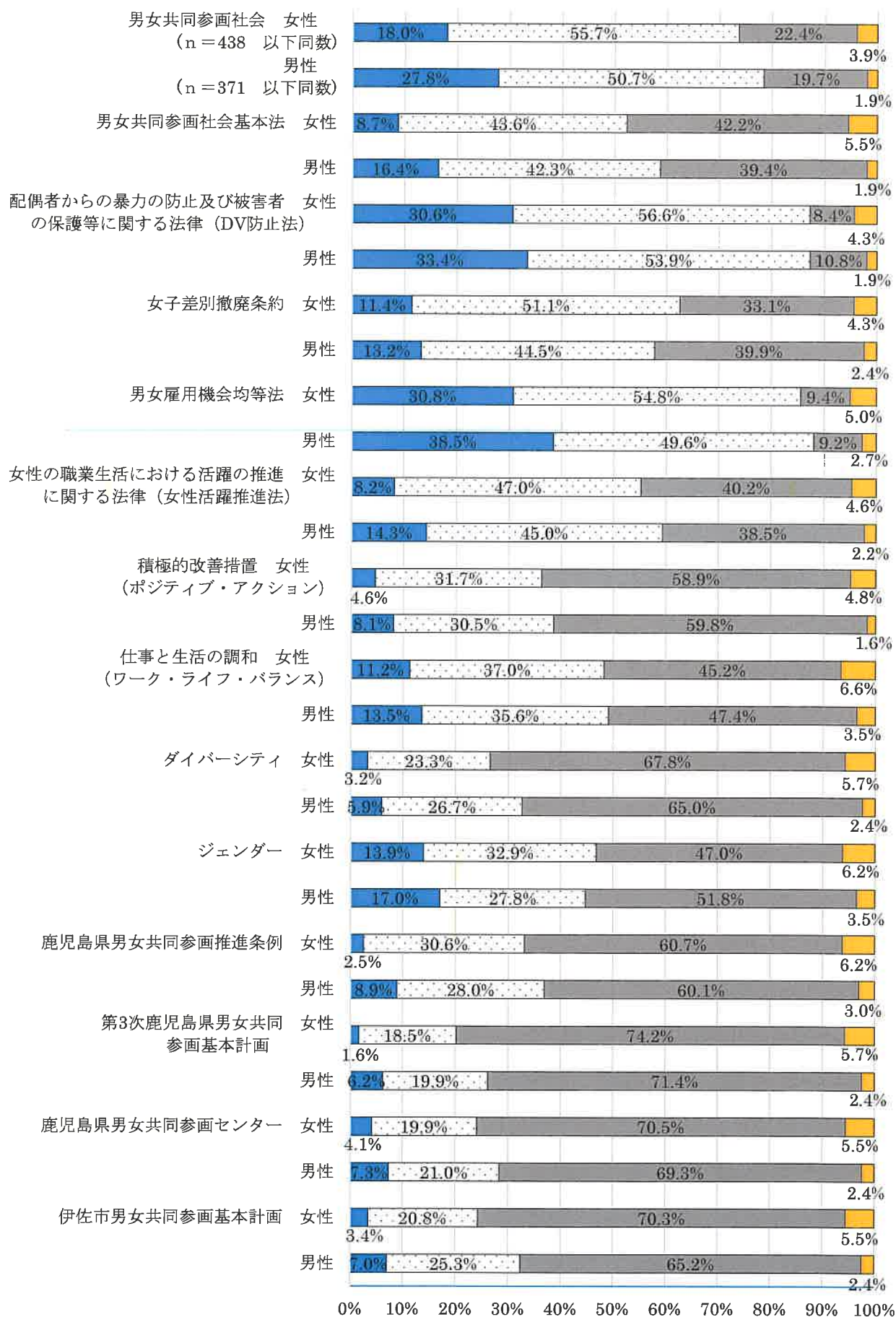
性別で見ると、「よく知っている」と答えた割合は、男女とも「男女雇用機会均等法」(女性30.8%、男性38.5%)、「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」(女性30.6%、男性33.4%)、「男女共同参画社会」(女性18.0%、男性27.8%)の順となっており、全ての用語で男性が女性より高い結果となっている。また、「知らない」と答えた割合は、「第3次鹿児島県男女共同参画基本計画」(女性74.2%、男性71.4%)、「鹿児島県男女共同参画センター」(女性70.5%、男性69.3%)、「伊佐市男女共同参画基本計画」(女性70.3%、男性65.2%)、「ダイバーシティ」(女性67.8%、男性65.0%)の順となっており、これらの用語で女性が男性より高い結果となっている。

男女共同参画関連用語の認知度 【県との比較】





男女共同参画関連用語の認知度 【性別】

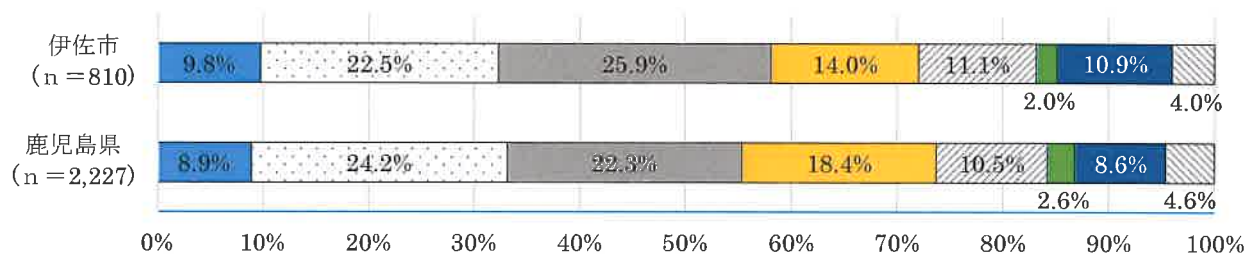


問3 あなたは、今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために何が重要だと思いますか。(各項目について、1つだけ選択)

男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要なことについて、「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること」(25.9%)と答えた割合が最も高く、次いで「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(22.5%)、「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(14.0%)、「行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用、充実すること」(11.1%)、「法令や制度の上での見直しを行い、女性に対する差別的取扱いにつながるものを改めること」(9.8%)の順となっている。

鹿児島県と比較すると、回答割合の高い順から1番目と2番目が入れ替わる結果となっている。

男女があらゆる分野で平等になるために最も重要なこと 【県との比較】

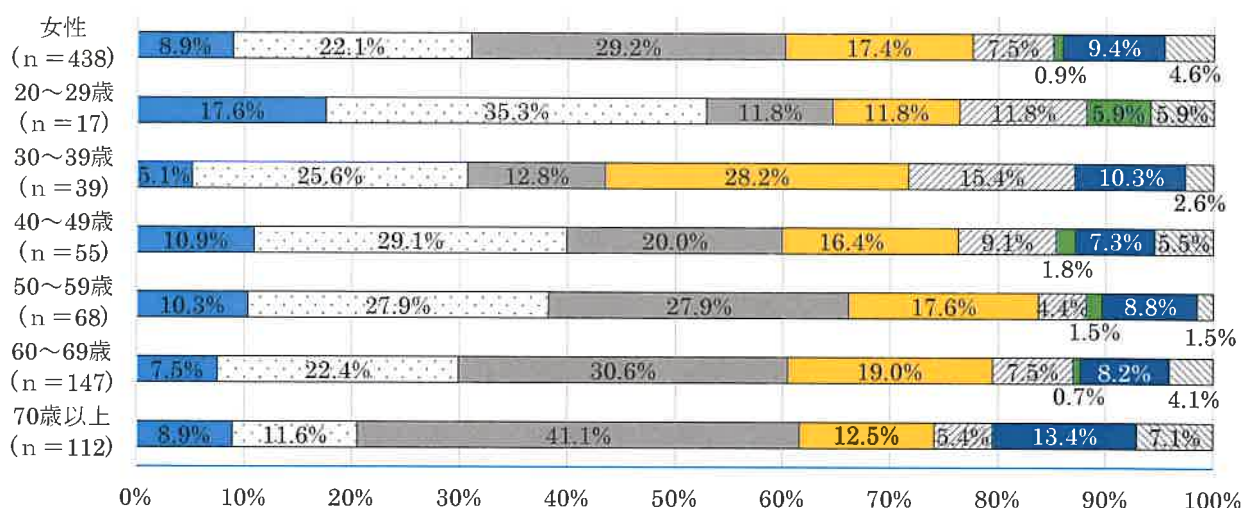


- 法令や制度の上での見直しを行い、女性に対する差別的取扱いにつながるものを改めること
- 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること
- 女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること
- 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること
- 行政や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用、充実すること
- その他
- わからない
- 無回答

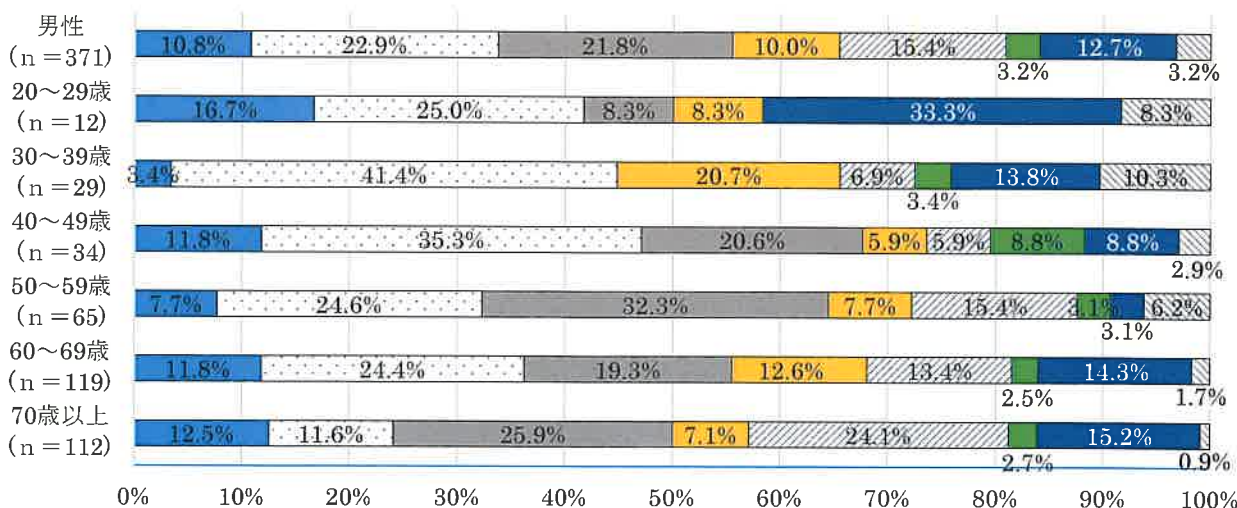
性別で見ると、女性では「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること」(29.2%)と答えた割合が最も高く、男性では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(22.9%)が最も高くなっている。

性別、年代別で見ると、30歳代の男性で「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改めること」(41.4%)が他と比較して高くなっており、女性では年代が上がるほど「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に資質や能力の向上を図ること」と答えた割合が高くなっている。

男女があらゆる分野で平等になるために最も重要なこと 【女性、年代別】



男女があらゆる分野で平等になるために最も重要なこと 【男性、年代別】



《その他の回答》

- 社会参画的なものに男女という言葉を使用しないこと。※男女という言葉を使うことで格差があるとの意識付けになっているのでは？
- 力仕事以外は、女性も男性と同じ意識を仕事に対してもつこと。
- 自己中心に走らないこと。
- 相手を思いやる心。
- 選択肢は、女性が差別的扱いされているが、今や、女性が優遇されていませんか？
- 地方では、特に労働賃金や条件(手当等)の格差があるため、企業、事業主に対しての、男女均等の向上が必要だと思います。
- 市、県、国が企業へ支援をし、産休・育休を取りやすくすること。子供がいる家庭に支援をすること。出産は女性にとって大きなハンデになっていると感じる。
- 男女平等といった意識をしない。
- 平等でなくても良いのでは。
- 選択肢は全部重要だと思う。
- 古い体制を改め、女性が意見しやすい環境を作る。
- 差別がどうのこうのと言わないで、男性は女性に思いやり、女性は男性を立てて、男性と女性が同じ感覚だと、思う様にならない。この世は、男女しかいないので。
- 男と女、違うものが平等になるのは難しい(同じ人間だが)、それぞれの違いや言い分を理解し合うことは大切だと思う。子供は、家庭や地域で育った中で、父、母、大人の男、大人の女の役割、あるべき姿を見て学んでいくと思うので、その姿勢を見せる。